
真・恋姫?無双 ～小霸王伝～

金魂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫？無双 ～小霸王伝～

【Nコード】

N2805Z

【作者名】

金魂

【あらすじ】

江東の虎、孫堅の嫡男に転生し僅か1歳で戦場デビューと衝撃的な事が続き若干転生したことを忘れかけている孫策こと小狼がおぼろげな前世の記憶と若干チートじみている勘と身体能力を活かし激動の三国時代を生きる！！

この小説は金さんの初投稿作品です。

金さんが卒研等のストレスから逃げるため勢いで書いたものです。不定期です。拙い分で誤字があります。応援はされるとモチベーシ

ヨシが上がりに調子をこく可能性がります。あと、雪蓮フアンごめ
んなさい

プロローグ

砂塵が舞い散る荒野

怒号轟く戦場

血飛沫まき散らす人

俺はこの地獄のような光景を幼い時から数え切れないほど見て来ている

と言うのも、俺の母の教育方針で「孫武の子孫たるもの戦上手たれ」と戦場の機微を読めるようになる様にと乳飲み子の時分から母に背負われ戦場を転戦していた

戦場デビュー僅か1歳

2歳にして渡り歩いた？戦場は20を超え

4歳から剣術やら弓術とうとう武術を学び始め

6歳にはそこらの兵士では敵わないほどの成長を見せていた

8歳にして将デビューを果たした

と、なぜ俺が自我にも目覚めていないであろう赤子の時の記憶があるのかと言つと

「堅殿、敵前線が崩れましたぞ」

と少しばかり昔を思い出しているうちに戦局はこちらに傾いたようだ。

「今が好機ね・・・豹、祭、小狼追撃するわよ！しっかり付いてきなさい！！」

「「「御意！」「」」

「孫呉の勇士たちよ！！我に続けー」

お袋が総攻撃の号令をかけ真つ先に先陣を切る
その後を、豹と祭と呼ばれた女性二人が続く

と、俺も遅れるわけには行かない

頬を軽くたたき、その痛みを持って意識を引き締める

母から貰った古錠刀を背に背負った鞘から抜き放つ

そして、先に行く母孫堅の後を追うため馬の横腹を軽くける

未だ遠いその背に追いつくために。

俺こと孫策 伯符、10歳は転生者である

第1話（前書き）

勢いで書いてただけなので、お見苦しいと思いますがどうぞよろしく

第1話

俺こと孫策伯符は転生者である。

と言っても、生前の事はふとした時に思い出す程度で別段思い出したいとも思わない。

と言つのも1歳にして戦場デビューは伊達ではなく、それはもう前世の記憶をふっ飛ばすぐらいのインパクトがあった。

想像してほしい

首が座はすわったが意思表示は未だ泣き叫ぶことしかできない赤ちやんである俺

寝て食って所ン便をもらし食事という羞恥プレイの日々

いつも道理、美人の母親にあやされ、頬笑みをたたえたお父親に見守られ眠りにつく明日も同じことの繰り返しと退屈な赤ちやんライフが一変

きずいた時には戦場のど真ん中

降り注ぎ矢の雨

吹き飛ぶ生首

血も滴る良い母

あ、滴ってるのは敵の返り血ね

そりゃーもうとんでもない衝撃だよ！！

前世の記憶とかそりゃ盛大に吹き飛んだよ！！

そこからは、我慢との戦いだっただ

腹が減っても泣かず、所ん使したくても我慢し、一生懸命母の気お逸らさないよう我慢した

赤ちゃんの当たり前の行動が即刻DEADにつながるからだ

しかも、時たま母の背に居る俺を狙ってくる屑もいるし、弓矢も普通に飛んでくる

御蔭で気配の察知とか勘とかそりゃもう鋭くなったね

2歳ぐらいからは馬に乗る時は普通に母の前に座り戦場に出ていたと言っか、戦場に出るのが当たり前だったし

それに、体が固定されてないだけ、気持ちに余裕が出来たのか母と話しながら戦場を駆けまわっていた

4歳には本格的に武術を学び出し

6歳には初めて人の命を奪った

赤ん坊のころから戦場にいたからか対して罪悪感や不快感は覚えずただ人を殺したと言う実感があっただけ

こんな自分人としてどうなのとも思ったが、相手は奪っただけの獣、人とは違うと無意識に分けていたんだと思う

8歳で将として戦場に出て母は偉大だと再認識し

語り出せば限がない

とにかくこの十年生きるために必死だった

それこそ前世を思い出す暇さえなく

「小狼何処だ」

「お兄様ーどこですかー」

「おにーちゃんんどこー」

と親友と可愛い妹たちが俺を探しに来たようだ

とにかく孫策伯符 真名を小狼

第二の人生頑張って生きていきます

第2話

俺が3歳の時お袋は江東一帯の宗教集団や賊ども根こそぎ討伐したことが認められ飯の尉から一気に長沙太守に大出世を果たした。

どのくらい偉くなったか、よく分らんが給料は3倍近く上がったらしく酒をたくさん買えると喜んでいたのを良く覚えている

それに比例して政務の仕事が増えてもいたが

まあ蓮華が腹の中にいたからちようど良かったと思うが妊婦の癖に戦に出ようとするのはやめてほしい

しかも、韓当・程普・黄蓋・祖茂ら4将軍に止められたから不貞寝するとかどんだけガキだよ!!

蓮華と言つのは俺の妹で名は権字は仲謀で真名を蓮華といい、少し人見知りだがいつも俺の後を突いてくる愛い妹だ。

いやマジで!!

なんて言つこの世に降り立った天使?野に咲いた一輪の花?いやもう、可愛くて、可憐で、可愛くて幾万の言葉で言い表せないくらい!

だから、お袋が蓮華背負って戦に行こうとした時は命を掛けて止めた。

そりゃもう、必死に止めたよ。

その時の会話をどうぞ

「なに、戦に行くのに蓮華背をつてるんだよ!!」

「連れていくために気まてるじゃない」

「なに当たり前みたいに言の!?!いいから蓮華おろせよ!」

「えゝ何でよ?」

「何でじゃねえよ!戦に赤ん坊連れてくなよ危ねーだろ!!」

「大丈夫よ。小狼だつて大丈夫だつたじゃない」

「それが奇跡なんだよ!親父たちも見てないで止めるよ!!なに? 搾り取られるから無理だつて?そんなこと知らねえよ!!」

「なによ、反抗期?」

「ちげえよ!!」

てな感じで、出陣まじかまで粘りようやく諦めさせた。

あん時ほど俺が妹を守らなきゃいけないと強く思ったことは無ね

と考えていると、服の裾をちょいちょいと引っ張られる事に気付き視線を向けると

お袋譲りの綺麗な桃色の髪、江東特有の褐色の肌、ひらひらフリルが多く使用された服を着た女の子が上目づかいに見つめている

俺は軽く屈み女の子に視線を合わせる

「蓮華どうしたの?」

「あのね、その・・・」

と何か言いたそうに服のスカートの裾をつかみまもじもじしながら
俺を見てくる

その様は鼻から愛が漏れそうぐらい愛らしい

俺はそんな妹を見ながらとりあえず妹に手を出す奴は殺すと心の中
で決意した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2805z/>

真・恋姫?無双 ~小霸王伝~

2011年12月11日13時51分発行